

第6学年2組 国語科学習指導案

平成22年6月1日(火) 第4校時

授業者 教諭

1 単元名 言葉のひびきを味わおう(題材「短歌・俳句の世界」)

2 単元の目標

- ・短歌・俳句の優れた表現を味わうことができる。(読む)
- ・短歌・俳句を音読し、文語の調子に親しむことができる。(言語)

3 単元について

日本の伝統的な文学ジャンルの中でも、短歌や俳句は古くから人々の生活の中に根づき、親しまれてきた。日本文化への関心と理解を深めるとともに、言葉の含意性や象徴性に触れ、言語感覚を養わせる。文語体の表現は五年生の「詩を味わおう」の「晴間」や「海雀」の詩の中に出てきており、読み味わっている。また、総合学習で行っている「ふるさと福井の歴史探検」では、福井の歌人橘曙覧についても学習し、独楽吟の詩を読み味わったり、自分達の独楽吟を作ったりして、短歌に親しみを持たせるなどつながりを持って取り組んでいる。

4 児童について

男子15人、女子12人の明るく元気なクラスである。意欲的に発表する児童が多い反面、自分の考えを持っていてもうまく発表できなかつたり、意見が言えずに戸惑ったりする児童がいる。全体的に文章を読み深めたり、自分の考えや感じたことを文章にまとめたりすることを苦手に思っている傾向があり、感想では、「いろいろと楽しかったです。」や「すごいと思いました。」といったありきたりの表現を使うことが多く、語彙力をつけることの必要性も感じている。最近では書く機会を増やしていることもあり、少しずつではあるが書くことへの抵抗は少なくなってきたように思える。

五年生で初めて文語詩と出会い、とまどいながらも音読などの活動を通して新鮮な感覚を味わい、六年生になり文語調の短歌の響きに親しみを感じているようである。百人一首クラブに所属する児童もおり、学活の時間を利用して百人一首を行ったところ、喜んで活動し、楽しみながら短歌の響きを味わうことができた。他の活動とのつながりを持ちながら短歌や俳句の優れた表現を味わわせていきたい。

5 指導について

今年度の研究テーマである『思いをふくらませ、自ら学ぶ子どもの育成～「つながり」のある学びの中で～』を受け、個人テーマとして『自分の考えを「話す」「伝える」ために「書く」手立てを探る』を設定した。自分の意見に自信を持って発表ができるように、自分の思いをよりよく文章にまとめる力をつけさせたいと考えた。文章を書くときには、その場面にあった注意点を具体的に示すことが大切だと感じている。昨年より続けている新聞スピーチでは、より技能を高めるために、自分の考えやその理由をはっきりさせるためのワークシートを工夫し、書くポイントを明確にした。また、国語の学習における初発の感想にじっくり取り組ませ、友達のことを聞いていろいろな考え方を交流することで学び合いができるようにしている。

本単元では、自分の好きな短歌を選び、自分なりの解釈をつけ発表することで、いろいろな考え方があることや自由に感じる事のおもしろさに気付かせたい。まず、短歌から感じる自分のイメージの色画用紙を選び、その画用紙に短歌を視写し、短歌のイメージする絵をかく。イメージする色から始めることで、その短歌に対する直感的な感覚を大切にしながら自分の感じたものをわかりやすく伝えるために鑑賞シートにまとめさせる。それぞれの意見を発表し、友達のことを知ることで学び合い高め合いをさせていきたい。

6 指導計画(5時間配当)

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価規準
1	短歌の特徴を理解し、繰り返し音読する。	短歌の特徴を理解し、文語の調子や五七調のリズムに気を付けながら音読することができる。	○				◎	(関)文語の調子や五七調のリズムに関心を持って音読することができる。

2	好きな短歌を選び、鑑賞する。	好きな短歌を選び、自分なりに鑑賞することができる。			○ ◎	(読)好きな短歌について自分なりの解釈や好きな理由を書くことができる。
3 (本時)	選んだ短歌について、好きな理由や感じたことなどを発表し合う。	選んだ短歌について想像豊かに読み味わうことができる。			◎ ○	(話)選んだ短歌について自分なりの鑑賞文を発表し、自分の考えを伝えることができる。
4	俳句の特徴を理解し、繰り返し音読する。	俳句の特徴を理解し、文語の調子や五七調のリズムに気を付けながら音読することができる。	○			◎ (関)文語の調子や五七調のリズムに関心を持って音読することが出できる。
5	選んだ俳句について好きな理由や感じたことなどを発表し合う。	選んだ俳句について想像豊かに読み味わうことができる。			○ ○ ◎	(書)好きな俳句について自分なりに鑑賞することができる。

7 本時の目標

- ・選んだ短歌について、自分なりに短歌を鑑賞し、好きな理由を的確に伝えることができる。

8 準備物

短歌鑑賞シート，評価用ワークシート，OHC

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）	
○短歌を暗唱する。	<ul style="list-style-type: none"> ・五七調のリズムに気を付けながら読むように言葉かけをする。 ・暗唱できない児童には教科書を見るように指示する。 ・自分と同じ短歌を選んだ人を知り、発表への意欲付けをする。 	
○選んだ短歌を発表する。		
「だから、この短歌が好き」の発表会をしよう		
○選んだ短歌について自分なりに鑑賞したものを発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ・同じ短歌を選んだ人と紙の色が違ったり、好きな理由がちがったりすることに気付かせる。 ☆選んだ短歌について、自分なりの解釈を付け、その短歌が好きな理由を伝えることができたか。 <p style="text-align: right;">(発言・観察)</p>
○友達の発表を聞いて、評価表に一言感想を書く。		<ul style="list-style-type: none"> ・好きな理由が的確に伝わってきたかどうか、また発表の仕方がよかったかどうかを評価し、感想を書かせる。
○感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて感じたことを発表させることで、たくさんの意見を交流することができるようにする。 	

10 授業の観点

- ・短歌を味わうために書いた鑑賞シートの活用方法は、有効であったか。
- ・学び合い高め合う手立てとして、これまでの活動がつながり合っていたか。